

1 はじめに

今年度は、運営委員会を中心に、児童が自分たちでできる活動を考えるだけでなく、児童集会や縦割り班活動などの異学年交流を多く実施することができた。今年度、実施した活動を報告する。

2 実践内容

(1) 運営委員会の取組

運営委員会は、8名（5学年4名、6学年4名）で構成されている。前年度から、児童が主体となり、児童たちが学校生活を快適に送れるように考え、活動した。

ア 「金小のきまり」のポスターの掲示

昨年度決めた、金小のきまり（使ってよい物・使っていけない物等）を忘れてしまっている児童が多いと高学年の児童から話があった。そこで、運営委員会の児童から金小のきまりをポスターとして作り、各教室に掲示したいという話があった。教室に掲示することで目に見える形で確認することができるようになった。



イ 金沢小音頭

金沢小学校の伝統的な踊りである「金沢小音頭」を今年度も運動会で実施した。練習では、踊ったことのある現6年児童が、各クラスを回り、踊りを教えた。運動会では地域の人と踊るとともに音頭ができるまでの歴史を紹介した。運動会当日は地域の皆さんと一緒に楽しく踊ることができた。



ウ NOいじめ集会

今年度は6月に実施し、いじめはなぜいけないのかを低学年にも分かりやすく伝えた。絵本をスクリーンに投影して発表した。

エ 金沢小まつり

児童が中心となり、みんなが楽しめる行事をつくることをねらいとし、取り組んだ。特技発表や言葉集めウォークラリーを縦割り班で行った。金沢小学校の児童1人1人がたくさん輝く場面が見られた。



3 成果と課題

学校をよりよくするために、課題から解決まで、児童たちが主体的に取り組んだ。児童中心に活動したことで、達成感と自信に繋がったようである。自分たちで学校をよくしたいという気持ちが高まったことは大きな成果である。

課題は集会当日までの進め方を児童だけで話し合うには、時間が少なかったことである。時間に限りがあったため、教師が指示を出す場面も多かった。児童たちの主体性を大切にするためには、企画の段階から、児童たちと打ち合わせの場を設定する必要があると感じた。